

こころしたいこと

当 HP の「時代の変化の象徴的な写真」を読んだメル友から、以下のメ - ルがありました。

我々の意識改革の折りの心しなければならぬことの一つかなと思い、参考までに記載します。

【「障害児」である前に我が子であるというごくごく当たり前のことが、時にはその障害の重さ故に、つけられた「障害名」故に忘れさせられてしまうように思います。

幼くして「自閉症」といわれた自分の我が子の行動を、その後お母さんは、この子のこの行動もあの行動も「自閉症」故ではないか？ そのように考えてしまうのではないのでしょうか？ 「障害名」故にそうした行動の本当の意味が極めて見えにくくなります。時に全く見えなくさせます。

元来、これこれこうした行動傾向のある人を便宜上「自閉症」と呼ぶことにしますとしただけであるのに、いつの間にか論理は入れ替わって、行動の原因が自閉症だからなどといわれてしまっています。

意識改革が進む一方で、「専門家」が増えすぎ、わけもわからず障害名が細分化され、このままいったらほんとにやばいぞと、思わずにはいられないこの頃でもあります。

ただただ真摯に、子どもさんと親御さんと付き合う、それでいいじゃないですかと思わずにはいられません。】

確かに最近、たくさんのプロ（？）のアドバイスに、親は戸惑っていることは見聞します。時にはプロ（？）の正反対のアドバイスもあり、一体どのアドバイスが我が子に適切なのかとの相談されたこともあります。

それ故私は、当 HP の「療育とは、あらゆる科学と文明を駆使して……」の記載のような見解を抱いています。

(2003 年 04 月 11 日 記)